

小牧市 認知症施策推進計画（骨子案）

第1章 計画に関する基本的事項

1. 計画策定の趣旨

- ・本市では、これまで「小牧市地域包括ケア推進計画」に基づき、様々な認知症施策を推進してきた。
- ・一方、共生社会の実現を推進するための認知症基本法（以下「認知症基本法」）の施行により、認知症の人が尊厳を保持し、希望を持って自分らしく暮らし続けられる共生社会の実現が急務となっている。
- ・そこで、認知症の人及びその家族などの声を踏まえ、認知症施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とし、新たな計画を策定する。

2. 計画の位置づけ

本計画については、共生社会の実現を推進するための認知症基本法第13条に基づく「認知症施策推進計画」として位置づける。

また、福祉分野の上位計画である「小牧市地域包括ケア推進計画」に掲げる認知症に関する個別計画とする。

3. 計画の期間

令和9年度から令和11年度までの3か年を計画期間とする。なお、令和12年度からは「小牧市地域包括ケア推進計画」に包含する予定。

第2章 小牧市の現状と課題

以下、4項目を掲載予定。

- 1 小牧市の高齢者を取り巻く現状
- 2 高齢者保健福祉や地域福祉に関する実態調査結果からみる現状
- 3 ヒアリング調査からみる現状
- 4 現状からみえる課題

概要については、資料4-2参照

第3章 計画内容

1. 基本理念

みんなが主役 支え合いの輪で
つながるまち こまき

基本理念については「小牧市地域包括ケア推進計画」の理念とし、誰もが地域の一員として主体的に関わり、互いの人権を尊重しながらその人らしく暮らし続けられる地域共生社会の実現を目指す。

2. 基本的な視点

認知症基本法の目的である共生社会の実現に向けて、「認知症になっても、希望を持って自分らしく、共に生きる仲間として暮らせる社会」へ社会全体の意識を大きく変えることを目指す。

認知症の人やその家庭の日常生活上の課題に対応できるよう、多様な主体が連携した支援体制を充実するとともに、当事者の活躍の場の創出や、ICTなどを活用した見守り体制などの充実をはかる。

3. 施策の展開

認知症基本法、認知症施策推進大綱に基づき、「認知症施策推進計画」の柱に基づき施策を体系化。

「小牧市地域包括ケア推進計画」において関連する基本方針は以下の通り。

- 地域で支え合う人づくり
- 家族介護者支援の充実
- 認知症の人を支えるサービスの充実
- 権利擁護支援の推進
- 安全に暮らせる目配り・見守り体制の充実

4. 計画の推進

本計画を推進していく体制及び進捗管理方法を明確にする。

小牧市における「認知症施策推進計画」の柱を構成する要素

■ 認知症基本法及び認知症施策推進大綱で示されている本計画に盛り込むべき基本的施策

1 認知症の人に関する国民の理解の増進等

- ・「新しい認知症観」を含め、認知症及び認知症の人に関する正しい理解を深められるよう普及啓発活動を推進します。

2 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進、認知症の人の社会参加の機会の確保等

- ・認知症の人がその能力や希望に応じて活躍できる場の創出など、社会の一員として活躍し続けられる機会と環境の充実をはかります。

3 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護

- ・認知症の人が自らの意思で生活を営めるよう、日常生活における意思決定の支援を充実させるとともに、成年後見制度の利用促進や消費者被害の防止など、権利擁護の体制を強化します。

4 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等、相談体制の整備等

- ・多様な主体が連携した相談、支援体制を充実します。
- ・認知症の人やその家族が、初期段階から身近な場所で気軽に相談でき、必要な支援に繋がるよう、地域包括支援センター等の相談窓口の機能強化を図ります。

5 認知症の予防等

- ・市民が「認知症の予防（発症を遅らせる、進行を緩やかにする）」に取り組めるよう支援します。

■ 本計画に反映すべき市民からの主な声（ヒアリング調査結果）

1 実施内容

- ・認知症基本法や認知症施策推進基本計画を踏まえ、計画策定に向けて、本人・家族等の意見を把握するためのヒアリングを実施。
- ・対象：認知症の人、家族介護者、認知症カフェ参加者・ボランティア、一般高齢者、事業所スタッフ・地域包括支援センター等専門職、認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チーム員、認知症サポート医。
- ・人数：65名（加えて、圏域会議・地域ケア会議の論点も参照）

2 主な声

本人：

- ・トイレは一人で行きたい。
- ・お小遣いで好きなつまみを買いたい。
- ・昔、畑をやっていたので、またやりたい。
- ・今のままで満足。デイサービスを使えることがありがたい。
- ・夫婦2人だと家にも会話がない。出かけていろいろな人と話すことが楽しい。認知症カフェは至福の時。

家族：

- ・自分で行けることは自分でやってもらうようにしている。本人がやりたくてやっていることは継続できると良い。
- ・デイサービスは料金が高いため、なかなか利用しづらい
- ・介護している介護者も社会とつながりを持っている方がいいと思う。
- ・近所の人からしたら少し不審に見えると思うが、見守ってもらえるとありがたい。そのためには、認知症について隠さずオープンにしていかなければならないと思う。
- ・GPSを持たずに外に出てしまうこともあり、結局大事なのは住民同士のつながりだと感じる。